

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和3年第I四半期（1～3月）

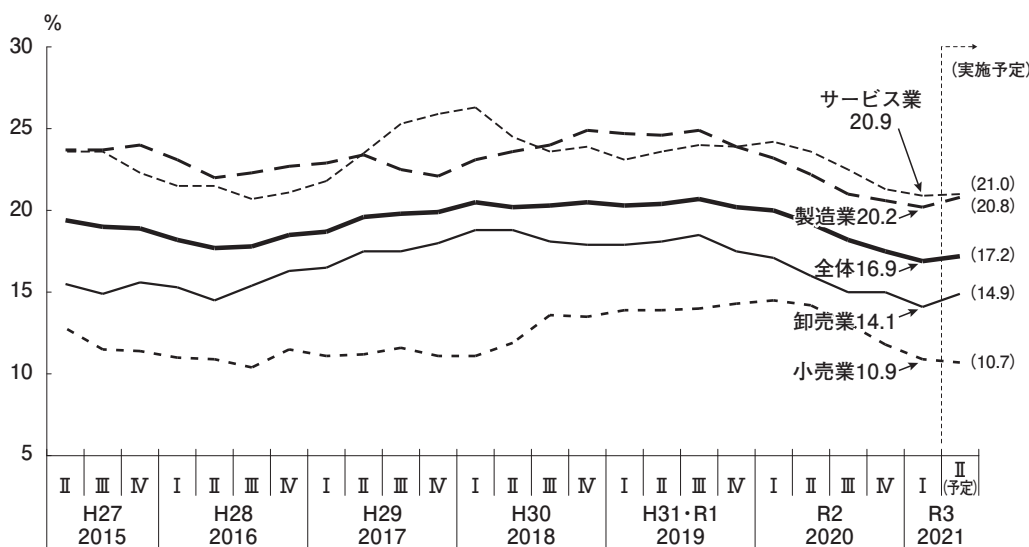
設備投資：やや低下 資金繰り：悪化に転じる
採算状況：やや悪化 雇用人員：わずかに不足感を強める

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和3年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は全体では16.9%となり、前期（令和2年10月～12月）の17.5%からやや低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業20.2%（前期20.6%）とサービス業20.9%（同21.3%）がわずかに低下、卸売業14.1%（同15.0%）と小売業10.9%（同11.8%）は大きく低下した。

図表1-1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和3年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では17.2%となり、当期と比べてわずかに上昇する見通しとなった。

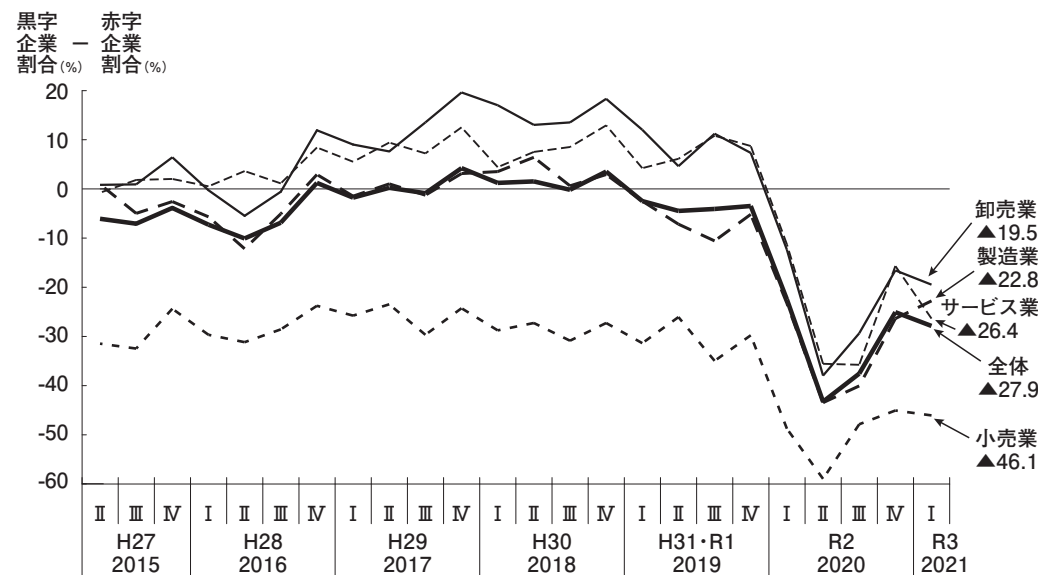
業種別にみると、当期と比べて製造業20.8%と卸売業14.9%はともに上昇した。一方、小売業10.7%はわずかに低下した。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲27.9（前期▲25.1）と前期と比べてやや悪化した。

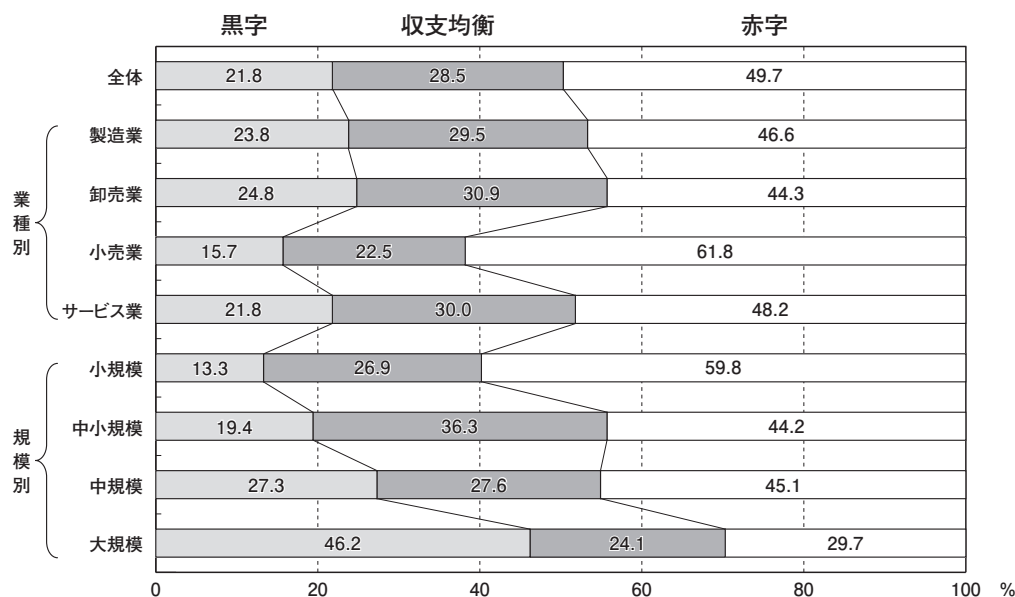
業種別にみると、製造業▲22.8（同▲26.4）は改善した一方、サービス業▲26.4（同▲15.7）が10.7ポイント減少し大幅に悪化した。卸売業▲19.5（同▲16.6）は2.9ポイント減少、小売業▲46.1（同▲45.1）は1.0ポイント減少しともにやや悪化した。前期に引き続き全業種で赤字企業割合が黒字企業割合を上回った。

図表1-2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字の割合が高い。小規模では黒字が13.3%であるのに対し大規模では黒字が46.2%と4割を占める。

図表 1-3 採算状況（業種別・規模別）



注) 四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。
規模別は規模不明を除く。

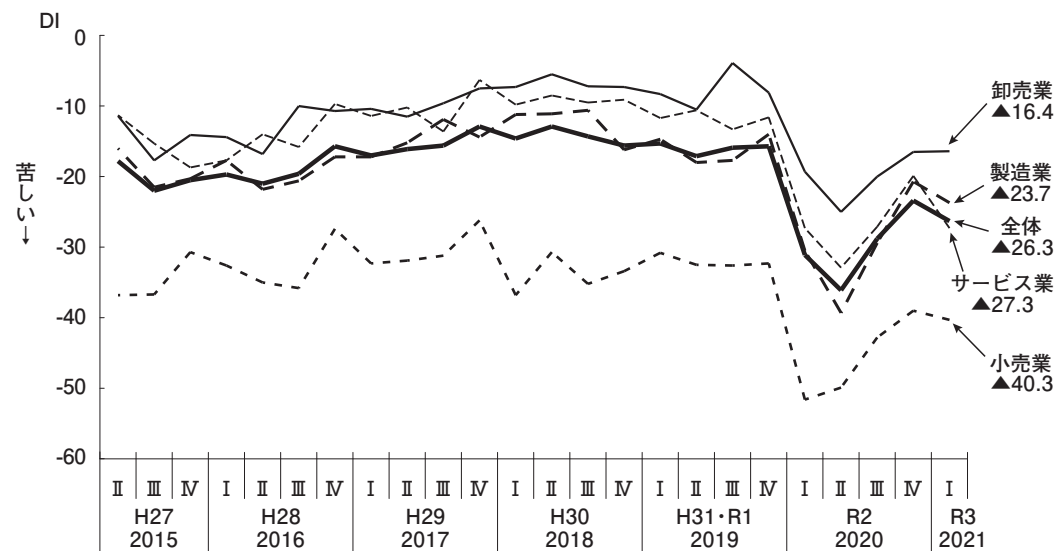
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲26.3（前期▲23.4）となり、悪化に転じた。

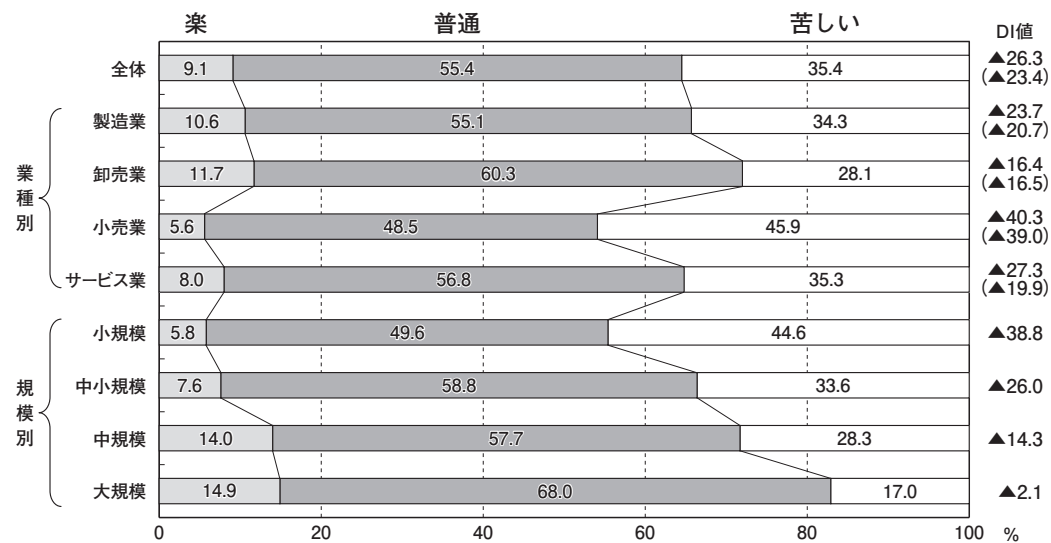
業種別にDI値をみると、製造業▲23.7（同▲20.7）は3.0ポイント減少、小売業▲40.3（同▲39.0）は1.3ポイント減少、サービス業▲27.3（同▲19.9）は7.4ポイント減少し、いずれも悪化に転じた。一方、卸売業▲16.4（同▲16.5）は0.1ポイント増加となり、横ばいで推移した。

規模別にDI値をみると、小規模▲38.8、中小規模▲26.0、中規模▲14.3、大規模▲2.1となり、規模が小さくなるほど資金繰りが苦しいと回答した企業の割合が高い。

図表 1-4 資金繰りDIの推移



図表 1-5 資金繰り状況（業種別・規模別）

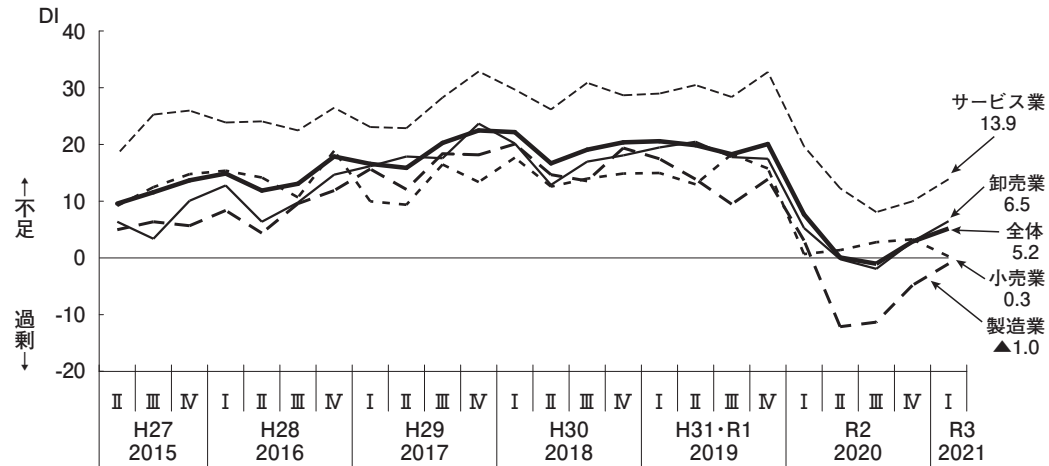


注) 四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。
規模別は規模不明を除く。

■雇用人員■

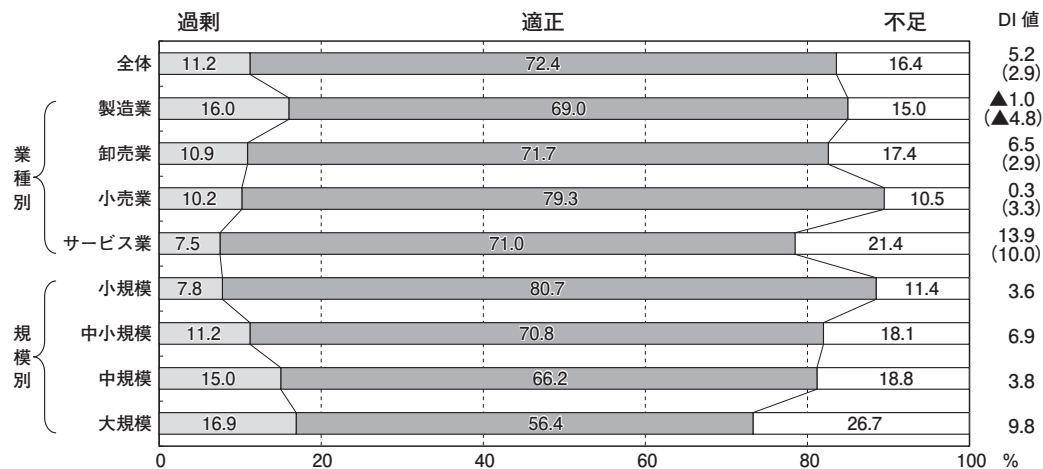
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では5.2（前期2.9）となり、わずかに不足感が強まった。

図表 1-6 雇用人員DIの推移



規模別にみると、大規模は他の規模に比べ不足と回答した企業の割合が26.7%と高い。小規模は適正と回答した企業が80.7%を占める。

図表 1-7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。
規模別は規模不明を除く。